

# 学生生徒の健康管理に関する調査

(運動選手の環境と非運動選手の環境)

水 谷 英 三  
篠 田 道 子

## I 諸 言

**Physical Education, Health Education** は人間が **Society** の一部であるので常に人間を対象にその人間が **Enuironment**, いや **the environment of living** によって、どの様になって来たか、**Enuironment** が今後の成長にどのように影響していくかと言うことだと思ふ。

**The environment of living** によって心身の成熟が発育段階を変化させると言うことについては、**Prynchology, Physical Psychology, Hygienic, Health Education** 或は体育学会、体育医学会等の多くの資料によって発表されている。しかしこの多くの研究資料も学校教育の場に於て成長盛んな若い年代層に及ぼす **The environment of living** の関係ということをも果してどこまで念頭に置いてなされているか、この多くの資料を如何に処理しているかという事については疑問の余地があると思ふ。この様な意味でこの環境調査の一確立を見たいために始めたものです。

学校に於ける **Physical Education Teacher** は、家庭生活の主体である父兄と緊密な連絡のもとに管理監督せねばならない。学校に於ての **Physical Education** の **Guidance** が直接間接に生徒各自の心身の発育に如何に反映しているかまた **Physical Education** の業績によっても、どの様に心身の発育が左右されるものであるかということを、生徒各自に自覚させる事も必要である。

この様なわけで前に「学生々徒の健康管理に関する調査」と題し(環境と健康管理)、(月経管理と健康管理)の内容を詳細にけんとうしたものを第一号論叢に発表した。この度は(運動選手の環境と非運動選手の環境)並びに(性格から見た運動と月経、運動部員の性格調査)を **Health Education** 管理の為に研究してみました。これは、健康基本調査表なるものを作り生徒各自の自覚するまゝを卒直に記録せしめ、定期の身体検査のデータと比較対照し種々

の **Correlation** を研究し今後の **Physical Education** の参考資料及び学校に於ける健康管理の基本たらしめんとしたのである。その調査内容の一端を簡単に報告する。

### (1) 調査方法

この調査は論叢第一号発表のと同じく「健康基本調査」と題して二枚からなり1~24迄の問題を本人によって記録せしめた質問試法である。(別表 No. 1 No. 2, No. 3) 問題は、次の四種類より作製されている。

#### 1. Simple-Recall Forms

略号 S. R. No. 1, 4

#### 2. Completion Forms

略号 C. No. 2, 3, 8, 13, 14, 22, 23

#### 3. Multiple Choice Forms

略号 M. C. No. 5, 11, 16, 17, 20

#### 4. Multiple Recall Forms

略号 M. R. No. 6, 7, 9, 10, 12, 15, 18, 19, 21, 24

この調査についてはどこまでも本人の自由意見に委ね強要せず、そして調査の項目並びにその内容によつては想わざる羞恥心を想墮するにしないものがないか等どの点も考慮してすべて無記名として提出せしめた。然し、整理の都合上便宜のため、学年別、組別だけは記載せしめることにした。調査は昭和31年7月13日より一週間最も勉学にさしつかえない時期を選んで調査表に記入せしめた。No. 2, 4 の調査は補助用紙を作り一週間の記録をとらせ今調査項目を次に提示する。

### (2) 調査対象

甲南女子中学校、甲南女子高等学校、甲南女子短期大学の生徒763名を対象とし、第一報、第二報で報告した多角的なる環境調査の一部である。生徒環境、自覚健康度 A subjective symptom について選出し、運動部に属する165名を運動部群 Sn 残り599名を非運動部群 Mn とし、Sn, Mn の比較、相関等を研究してみた。

尙 Sn は全員265名でその中より小学校中を含め選手(対外)をしたことのある者より対外試合5回以上経験、年数2年以上を選び165名にした。(別表 No. 4)

別表 No. 4 の中で略号は次の様になる。

B・B	バスケットボール選手	P・P	ピンポン選手
V・B	バレーボール選手	D・C	ダンス体操選手
S・B	ソフトボール選手	J・A	弓道選手

## 別表 No.1

## 健康の基本調査

1. 学年 ( ) 組 ( ) 番号 ( )
2. 現住所 ( )
3. 出身校  
幼稚園 ( )  
小学校 ( )  
中学校 ( )  
高等学校 ( )
4. 生年月日 昭和 ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日生
5. 家の所在地  
〔住宅地、商店街、工場地帯、その他 ( ) 〕
6. 家屋より学校までの距離、交通利用度  
例 (家<sup>徒歩</sup><sub>300m</sub>西宮北口) (西宮北口<sup>徒歩</sup><sub>700m</sub>岡本) (岡本<sup>徒歩</sup><sub>700m</sub>学校)  
( ) ( ) ( )  
( ) ( ) ( )
7. 家庭における勉強時間  
朝食前に ( ) 時間位勉強する  
朝食一登校に ( ) 時間位勉強する  
下校一夕食に ( ) 時間位勉強する  
夕食一就寝に ( ) 時間位勉強する
8. 一日の平均睡眠時間  
( ) 時間位
9. 家庭でのラジオ、テレビの利用度  
ラジオを一日平均 ( ) 時間位きく  
テレビを一日平均 ( ) 時間位みる
10. 稽古事の種類、時間  
(種 類) (一週間何回) (一日の稽古時間)  
( ) ( 回) ( 時間)  
( ) ( 回) ( 時間)  
( ) ( 回) ( 時間)  
( ) ( 回) ( 時間)  
( ) ( 回) ( 時間)
11. 両親の運動に対する理解度  
父〔大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない〕  
母〔大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない〕
12. 貴女の趣味  
( ) ( ) ( ) ( ) ( )
13. 一カ月に使うお小遣いの平均費用  
( ) 円位
14. 庭の広さ  
大体 ( ) 坪位
15. 家庭にある運動の設備、用具をあるだけ書いて下さい。

## 備 考

○学校の所在地  
(府県・市)も  
はつきり書いて  
下さい。

○自転車、バス、  
その他の利用が  
あればそれも書  
いて下さい。

○試験前、試験中  
及び休日、休暇  
中を除いた一週  
間の平均時間

○特殊な時は除い  
て下さい。

○なるべく主なものから順に書いて下さい。

○学用品やその他  
学校関係の費用  
は除いて下さい

学 年	組	番 号	年 令

別表 No.2

16. 学校で入っている自治会の部  
 例 (バスケット)部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)  
 ( )部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)  
 ( )部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)  
 ( )部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)  
 ( )部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)  
 ( )部 (中一、中二、中三、高一、高二、高三)
17. 本人の運動に対する理解度  
 [大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない]
18. 保健衛生に関する学校への希望
19. 運動に関する学校への希望
20. 本人の健康度  
 [大変健康、健康、普通、あまり丈夫でない、弱い、判らない]
21. 本人が今までにかかった病気  
 例 (百日咳) ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( ) ( )  
 ( ) ( ) ( ) ( )
22. 御飯の時のおそうざい。  
 好きな物 ( )  
 嫌いな物 ( )
23. 間食として  
 好きな物 ( )  
 嫌いな物 ( )
24. 家族の方でどんな病気をした人がありますか、その病名をかい  
 て下さい。

○何年の時に何部  
 に入ったかを書  
 いて学年の所に  
 ○を入れる。  
 ○中一は入ろうと  
 する部を書いて  
 下さい。

○思ったことを何  
 でも書いて下さ  
 い。

○軽い病気でも出  
 来るだけ書いて  
 下さい。

別表 No.3

- 記入に関して疑問の点があれば、  
 赤鉛筆で番号の箇所にも○をして下  
 さい。
- 関係のない項目は / して下さい。
- この調査には、人の言葉に左右さ  
 れないで、ありのまま自分で思っ  
 た通りを正直に書いて下さい。
- ( )の中に記入するか「」の  
 中の適当なところへ○をつけて下  
 さい。
- この調査の個人的な記録は、絶対  
 秘密を守りますから安心して書い  
 て下さい。

記入上の注意

学生生徒の健康管理に関する調査

S・T 軟式テニス選手

L・T 硬式テニス選手

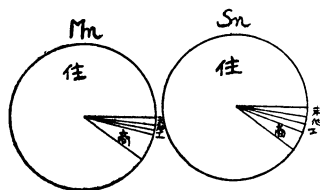
Sn は165名にした為稍人員的には少い様だが本学園のスポーツの種々なる考  
え方が分る。

別表 No. 5

別表 No. 4

Tot	18	17	16	15	15	14	13	12	Y	
11		2	2	2	1	4			BB	運動 郡群 調査 人員 Sn
17	1	3	3	2	4	4			VB	
12			2	3		7			SB	
27		2	3	5	1	8	4	4	PP	
8			2	3		1	1	1	DC	
27		4	8	3		5	3	4	JA	
20		4	4	1		11			ST	
43		4	8	5		7	19		LT	
165	1	19	32	24	2	47	31	9	Tot	
591	5	85	104	98	3	86	100	118	Mn	
143	6	104	136	122	5	133	131	127	Sn+Mn	

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	Y		
98	149	1	19	27	25	40	28	9		住宅の 所在地 地域 比較 Sn	
42	7	0	0	4	0	2	1	0			
1.8	3	0	0	0	0	2	1	0			
1.2	2	0	0	0	0	2	0	0			
24	4	0	0	1	1	1	1	0			
888	532	5	76	93	89	78	89	102	1		全
60	36	0	4	5	9	4	7	7	2		Mn
0.6	4	0	1	1	0	0	1	1	3		
1.5	9	0	2	0	2	2	1	2	4		
20	18	0	2	5	1	2	2	6	5		



II 調査の結果

(1) 住宅の所在地域比較

先ず最初に Sn, Mn が住宅の所在地域によって選手又は理解度等異ると云う事を考え照査を考えて見た。結果は別表 No. 5 である。

この結果を見ると住宅の所在地域が本学園では90%強が住宅地に住んでいることがわかり論叢第一号(甲南)より参考に昨年度の全体の所在地域を挙げて見ると次の様である。

地域別	住宅地	商店街	郊外	工場地帯	ビル街	別荘地	その他	未記入
人員	800	46	6	5	4	2	2	5
%	91.95	5.20	0.58	0.54	0.45	0.22	0.22	0.54

(昭和30年度調査)

近郊の都市，神戸市の区別に分けて挙げてみると

地域	東灘区	芦屋市	西宮市	灘区	尼崎市	生田区	垂水区	宝塚市	須磨区	大阪市	葦合区	伊丹市	長田区	吹田市	兵庫区	明石市	大塚下
人員	252	211	185	53	43	26	24	18	11	10	9	7	6	4	3	3	5
%	28.97	24.25	21.27	6.09	4.94	2.98	2.75	2.07	1.26	1.14	1.03	0.80	0.68	0.45	0.34	0.34	0.55

(昭和30年度調査)

3つの数値を比べてみると Sn, Mn 共大部分が住宅地で生活している為住宅の所在地域による運動選手の排出は特別に認められない。殆んど Sn, Mn 共同様な%が出て来る結果である。これは調査集団の環境があまりにも良い点で論叢第一号“学生生徒の健康管理に関する調査”(環境調査と健康管理)の部に研究済みである。この調査は他集団に試みると良いデータを得られると思う。

(2) 平均睡眠時間比較

睡眠時間は Sn の方が Mn に比べて疲労度等の関係で多いという事が考えられる。(別表 No. 6)

別表 No. 6

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
363	6	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6h
2545	42	0	8	8	10	0	9	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7h
6121	101	1	8	20	12	36	16	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8h
969	16	0	2	1	2	2	8	1	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9h
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10h
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10h
	165	1	19	32	26	38	23	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	11h
	1263	8	144	243	176	286	263	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	Sn
	7.65	8.00	7.97	7.97	7.93	7.92	7.76	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	7.60	平均
0.28	17	1	2	8	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6h
2281	127	3	26	30	30	14	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	7h
5691	351	1	49	53	56	51	66	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	8h
1636	98	0	8	12	10	19	21	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	9h
0.06	4	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10h
0.03	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10h
	579	5	85	104	101	85	101	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	116	Mn
	4151	35	658	890	766	648	817	747	747	747	747	747	747	747	747	747	747	747	747	747	平均
	776	700	774	759	738	762	808	816	816	816	816	816	816	816	816	816	816	816	816	816	平均

この結果からして私達の考えていたことは完全に逆であることが認められた。即ち、18才の者を除き年令的に次の様な差が認められた。

	Sn	Mn	(±)
12才	7.60	8.16	-0.56
13才	7.96	8.08	-0.12
14才	7.52	7.62	-0.10
15才	7.53	7.58	-0.05
16才	7.59	7.59	0
17才	7.57	7.74	-0.17
18才	8.00	7.00	+1.00
Tot	7.65	7.76	-0.11

平均11分間の睡眠時間の開きが Mn > Sn として現われている。これは運動選手群の生活時間が運動の練習試合等によりせびめられている事が考えられる。又運動する事によって睡眠が深く短くなる事も考えられる。この調査は一週間の補助用紙使用

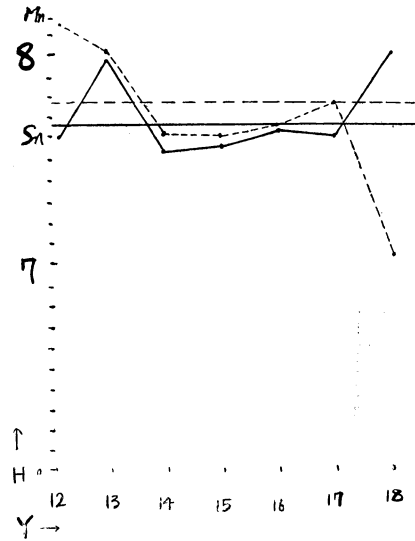
学生生徒の健康管理に関する調査

による調査である。

「健康教育の理論と実際」牧書店発行，荷見秋次郎，浜田正好，下田巧，岩本岩次郎共著による必要な睡眠時間の表を抜き書きすると次の様になる。

7才～9才	10～11時間
10才～12才	9～10時間
13才～15才	8～9時間
15才以上	8時間

別表 No. 7



と本調査 Sn, Mn を比べても非常に平均値より少い事が分かる。

Sn, Mn の比較は Sn が平均 11 分の少い事が分る。これは私達の想像よりはるかに少く，又思いがけない結果となった。今後の研究の調査対象となるものである。次に本調査を線グラフにあらわすと別表 No. 7 の様になる。

このグラフは 12 才に於ては Sn,

別表 No. 8

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	判別	Sn
26.66	44	0	6	4	8	13	11	2	良	本 の 身 體 健 康 度 評 価
37.37	65	1	6	12	7	21	15	3	β	
27.27	46	0	7	14	8	9	4	4	γ	
18.1	3	0	0	1	1	1	0	0	δ	
0.6	1	0	0	0	0	0	1	0	ε	Sn
18.1	3	0	0	0	1	2	0	0	判別	
18.1	3	0	0	1	1	1	0	0	未定	
15.69	94	0	18	15	15	13	13	20	良	Mn
36.72	220	0	31	36	41	28	37	47	β	
32.05	192	1	21	32	25	28	37	48	γ	
7.01	54	2	10	11	14	5	9	3	δ	
11.6	7	1	1	2	2	1	0	0	ε	Mn
0.66	4	0	0	2	1	0	1	0	判別	
4.57	28	1	4	6	3	11	3	0	未記入	

Mn = 9 : 118, 18才に於ては Sn, Mn = 1 : 5 で

人員の比較の為データとしては意味のないものである。

(.....は Mn の平均線, —— は Sn の平均値である。

(3) 本人の自覚健康度比較

A subjective symptom

自分の感じている健康に対する感じを6段階、即ち  
大へん健康 a

健康  $\beta$   
 普通  $\gamma$   
 あまり丈夫でない  $\delta$   
 弱い  $\epsilon$   
 判らない

別表 No. 9

に分けて調査をこころみ Sn, Mn の比を出して見ると次の様になる。別表 No. 8 となる。

$\alpha\beta\gamma$  の部分と  $\delta\epsilon$  判らないの部分との比、即ち

$$\frac{(\alpha + \beta + \gamma)}{Sn} : \frac{(\alpha + \beta + \gamma)}{Mn} = 93.92 : 84.46$$

$$\frac{(\delta + \epsilon + \text{残り})}{Sn} : \frac{(\delta + \epsilon + \text{残り})}{Mn} = 5.43 : 15.50$$

となり Sn に健康に対する自信度が分る。又論叢第一号の中の研究テーマの内の学校身体検査との相関は紙面の関係ではぶくが

Sn の n ( $\delta + \epsilon + \text{残り}$ ) = 10  
 Mn の n ( $\delta + \epsilon + \text{残り}$ ) = 93 } の注意者との比較は

$$Sn : Mn = 10 : 93$$

要注意者 Sn : Mn = 1 : 8

でほぼ比が正しく、このデータは相関に於て成り立つ様である。今後 Sn 群の健康診断の重要性は認識せしめられた。

(4) 家庭に於ける勉強時間比較

家庭に於ける勉強時間は睡眠時間を Sn に短縮させる一大要因であると思われる。一覧を示すと別表 No. 9 になる。

この表を比較して見ると総ての平均時間に於ては、Sn : Mn = 1.69 : 1.78 で平均5時の開きを見る。又30分以上勉強する者の%比較は

朝食前 Sn : Mn = 9.09% : 6.38%  
 朝食~登校 Sn : Mn = 3.63% : 2.01%  
 下校~夕食 Sn : Mn = 47.21% : 62.34%

	%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	朝食前	朝食	登校	下校	夕食	夜
	90.40	150	1	17	29	22	45	28	8	0	30	60	60	0	0
300	6.06	10		1	3	2	2	2			1	1	1	1	60
300	3.03	5		1		2									60
96.36	15.9	1	19	31	25	46	29	8							0
150	3.03	5			1		1	2	1						30
60	0.60	1				1									60
57.72	8.7	1	17	20	14	26	9								0
40.00	6.6	2	7	12	17	16	8								60
1200	6.01	10		1		4	5								120
360	1.21	2													120
180	1.81	3													0
120	19.39	32		7	2	4	10	8	1						60
960	43.42	70		6	11	8	28	12	5	120					120
960	31.57	52		1	6	16	10	8	10	1	180				180
480	4.84	8			3	3			2						240
270															0
9361	53.7	4	78	99	97	81	88	110	0						朝食前
870	3.85	2.3		1	3	4	4	6	5	30					朝食
400	2.82	1.5		4	2	7	7	5	3	60					登校
70.92	18.4	4	82	104	97	86	97	113	0						朝食前
360	2.01	1.2		1		4		2	5	30					夕食
	37.61	2.24	1	44	48	36	30	35	30	0					下校
1770	49.24	29.3	2	35	46	51	46	51	62	60					夕食
9000	12.60	7.5	1	3	10	14	10	13	24	120					夜
540	0.80	3		1						120					夜
100	0.6			1						3					夜
660	16.97	101	1	18	6	9	18	19	30	60					夜
920	52.10	310	2	42	42	53	55	54	57	120					夜
5400	23.62	139		17	38	25	12	25	22	180					夜
980	6.55	39	1	6	17	9				240					夜
10470	0.47	4	1	2				1							夜

$$\# Sn \ 1.692 = 1.414$$

$$Mn \ 1.981 = 1.452$$



学生生徒の健康管理に関する調査

夕食～就寝

Sn : Mn = 98.16% : 99.08%

と言う結果になり、朝食前では Sn が少々多く、朝食～登校迄はほとんど変わらない。

下校～夕食迄は、Mn がやはり多い。夕食～就寝では変わらない。

Sn は夕食後でなくては時間的に勉強出来ない形となっている様である。今後両方の生活時間活用調査の資料が是非必要となってくる。

(5) 本人の運動に対する理解度比較

これは被検者の運動に対する理解度調査で生活態度調査の一部である。

先づ学校環境調査を調べる必要を認めるが、今後の問題として、本人の運動に対する理解度と、両親の理解度との相関を考えて調査を計みた。(別表 No. 10)

6段階による多数選択法で調査をした。

- 大へん好き  $a$
- 好き  $\beta$
- 普通  $r$
- 嫌い  $\delta$
- 大へん嫌い  $\epsilon$
- 判らない

この結果  $\frac{\alpha + \beta}{S_n} = \frac{\alpha + \beta}{M_n} = 86.66\% : 66.02\%$

でこれは環境によつて生じた%か、経験によつて生じたものかは両親の  $a, \beta$  のデータと共に面白い結果がみられる。

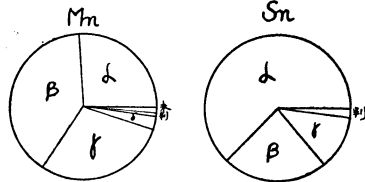
(6) 父親の運動に対する理解度比較 別表 No. 11

(7) 母親の運動に対する理解度比較 別表 No. 12

Sn は両親の理解によつて生れるという事は誰もが考える事であるが、この

別表 No. 10

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	Y度	本人の運動に対する理解度	
630	104	1	16	22	16	24	20	5	$\alpha$		Sn
233	39		2	7	5	16	5	4	$\beta$		
127	21		1	3	4	7	6		$r$		
									$\delta$		
0.6	1								$\epsilon$		
									判		
240	158	1	22	19	33	25	25	31	$\alpha$	Mn	
400	240	1	36	43	35	39	40	46	$\beta$		
213	176	3	24	36	27	18	32	36	$r$		
31	19		2	3	5	3	2	4	$\delta$		
									$\epsilon$		
0.5	3			2		1			判		
0.8	5		1	1	1		1	1	判		

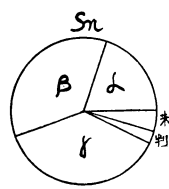
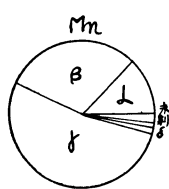
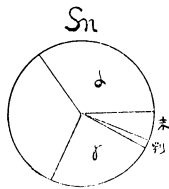
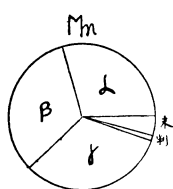


別表 No. 11

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	γ度	兩親の運動に対する理解度 (Mn)
33.9	56	7	11	9	12	12	5	1	α	
33.3	55	6	11	8	17	10	3	β	β	
24.4	47		6	10	7	17	7	γ	γ	Mn
								δ	δ	
								ε	ε	Mn
0.6	1			1				未判	未判	
3.6	6	1		1	1	2	1	未判	未判	Mn
2.0	1.4	1	21	23	33	31	32	33	α	
3.3	1.4	1	2.9	21	33	28	40	42	β	Mn
3.8	1.7	3	27	52	30	24	21	40	γ	
0.5	3		1	1	1				δ	Mn
									ε	
0.6	1.1	2	1		1	4	3	未判	未判	Mn
3.3	2.0	6	6	4	1	3		未判	未判	

別表 No. 12

%	Tot	18	17	16	15	14	13	12	γ度	兩親の運動に対する理解度 (Mn)
20.0	33		3	6	4	6	8	6	α	
35.7	59	1	7	8	11	20	10	2	β	
30.7	64		7	15	10	19	12	1	γ	Mn
									δ	
									ε	Mn
1.2	2			1	1				未判	
4.2	7		2	2		2	1		未判	Mn
13.6	8.2	1	6	13	17	13	15	17	α	
20.7	18.4	1	28	21	34	27	35	28	β	Mn
32.0	31.2	3	47	67	44	43	48	60	γ	
0.6	4		1	1	2				δ	Mn
									ε	
0.8	5					2	1	2	未判	Mn
2.0	1.2		3	2	4	1	1	1	未判	



考えが果して正しいかという事は研究されている文献を見出さない。

こゝであらゆる方法で相関を出す事を試みたが、あまり良い結果を見出さず最後に試みた相関分布グラフにより稍その結果が得られた。即ち Sn の父親群 (Sn Fa) は Sn と殆んど似たデータをもち、Mn の父親群 (Mn Fa) は Mn より稍 (-) を示す。又母親群 (Mo) は (Fa) よりも r に属する者が (+) し特に Mn' Mo は 50% が r 部に属する。

即ち 理解度は  $Sn' Fa > Mn' Fa$   
 $Sn' Mo > Mn' Mo$   
 $Mn' Fa > Sn' Mo$   
 $Mn' Mo > Mn' Fa$  となる。

α~β の 5 段階を生徒、両親の関係として、25 段階に分け Fa' Mo とに分けて数値を述べると次の様になる。

1, Sn と Sn' Fa の関係

Sn	α α α α α	β β β β β	γ γ γ γ γ	δ δ δ δ δ	ε ε ε ε ε
SnFa	α β γ δ ε	α β γ δ ε	α β γ δ ε	α β γ δ ε	α β γ δ ε
Tot	49 32 25 0 0	6 16 18 0 0	4 4 15 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0

学生生徒の健康管理に関する調査

ロ、Mn と Mn' Fa の関係

Mn	$\alpha \alpha \alpha \alpha \alpha$	$\beta \beta \beta \beta \beta$	$\gamma \gamma \gamma \gamma \gamma$	$\delta \delta \delta \delta \delta$	$\varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon$
Mn Fa	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$
Tot	87 55 33 1 0	61 84 85 2 0	37 43 91 0 0	5 6 9 0 0	0 0 0 0 0

ハ、Sn と Sn' Mo の関係

Sn	$\alpha \alpha \alpha \alpha \alpha$	$\beta \beta \beta \beta \beta$	$\gamma \gamma \gamma \gamma \gamma$	$\delta \delta \delta \delta \delta$	$\varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon$
Sn' Mo	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$
Tot	29 39 38 0 0	2 21 17 0 0	1 2 20 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0

ニ、Mn と Mn' Mo の関係

Mn	$\alpha \alpha \alpha \alpha \alpha$	$\beta \beta \beta \beta \beta$	$\gamma \gamma \gamma \gamma \gamma$	$\delta \delta \delta \delta \delta$	$\varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon \varepsilon$
Mn' Mo	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$	$\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon$
Tot	62 58 54 2 0	25 48 121 2 0	14 24 133 0 0	4 5 11 0 0	0 0 0 0 0

でこれを相関グラフにより示すと (Sn と Mn の比は 1 : 4.21 とする) 別表 No. 13 となる。

(イ) Sn に於ては Fa が  $aa$  の部に集中されて来る。即ち子供も父親も大へん好きに属する部の方へ近くなる。

$aa, a\beta, rr, \beta r, \beta\beta$  の順である。

(ロ) Mn に於ては Fa が  $\beta\beta$  の部に集中されて来る。即ち子供も母親も普通の方へ属する者が多くなる。

$\beta\beta, rr, aa, \beta r, a\beta, \beta a$  の順である。

(ハ) Sn の Mo に於ては,  $a\beta, ar$  に近く集中される。即ち子供と母と異なる。

$ar, a\beta, aa, rr, \beta\beta, \beta r$  の順である。

(ニ) Mn の Mo に於ては,  $rr$  に集中されて来る。即ち子供と母親が一致して来る。

$rr, \beta\beta, \beta\gamma, aa, a\beta$  の順である。

(一は両者意見が一致した場合を示す。)

父親の理解ある者程、運動を良くし、母の理解はあまり関係しない。

結 論

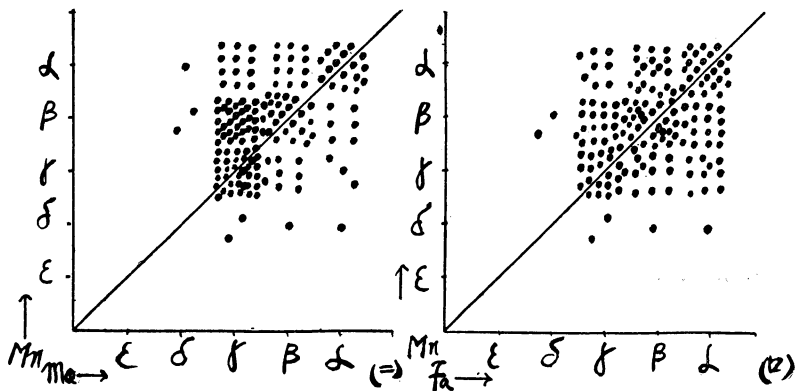
現在迄の環境調査を分類してみると

○ 成長段階に於ける環境調査

1. 生年月日 月別配分

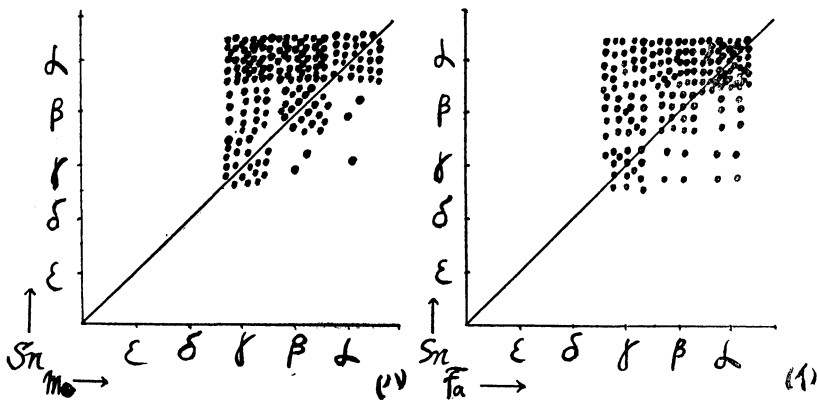
2. 住宅の所在地域 住宅の所在地域 Sn, Mn 比較

別表 No. 13



本人との相関

相関分布グラフ



- 3. 住宅の所在内容
- 4. 利用交通
- 5. 父兄職業別
- 6. 幼稚園就学率
- 家庭環境の変化調査
  - 1. 住宅被災状況
  - 2. 疎開状況
  - 3. 住居の移動回数

## 学生生徒の健康管理に関する調査

4. 住宅の種類
- 家庭に於ける生活態度調査
  1. 家庭に於ける勉強時間 Sn, Mn 比較
  2. 一日平均睡眠時間 Sn, Mn 比較
  3. 一日に食べる間食の費用
  4. 一月に費う小遣いの平均費用
  5. 家庭のラジオ, テレビの利用度
- 運動に対する理解度調査
  1. 本人の運動に対する理解度 Sn, Mn 比較
  2. 父親の            "                               "
  3. 母親の           "                               "
  4. 本人の自覚健康度                               "

今回の Sn, Mn の調査比較は、それぞれに結論がはっきり示されているのでまとめては述べないが、毎年一回の環境調査の有意義で且つ必要である事を認める。特に生活時間による調査の必要性を認めた。

Sn, Mn の生活時間と如何に変化しているかの研究の必要性か認めた。

又、自覚健康度調査の Sn, Mn の比較は定期身体検査のデータのくわしい比較を必要とする。運動に対する理解度の比較は両親の理解度との相関が稍はっきりして良い資料となり得る事であると思う。

本調査については池田学長、八木教授、平松教授の絶大なる御支援と短大学生山口、村越、河野、菊池諸君の供助を併せて感謝を致します。

## 参 考 文 献

1. スポーツと体力                               古沢 一夫著
2. 疲労と休養                                   古沢 一夫著
3. 成長と発達                                   教師養成研究所第四輯
4. 児童心理学入門                               K. コツカ著
5. 女子体育                                     大谷 武一著
6. 保健教育集成                               保健教育研究会著
7. 健康教育の理論と実際                       荷田, 浜田下田, 岩本共著
8. 素質検査の実際                             三本 知一著
9. 抜取検査                                   芳野, 唐津, 松本田口, 大前共著
10. 中西体力科学                               2の1号
11. 体育心理学                                 松井 三男著
12. 健康教育                                   斎藤 一男著

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 13. 体育の諸問題      | 大谷 武一著            |
| 14. 児童養護の理論と実際  | 木下 東作著            |
| 15. 甲南女子短大論叢第一号 | 甲南短大編             |
| 16. 高橋体力科学      | 2の4号              |
| 17. 数理統計学入門     | ホール・G・ホーエル著 田口玄一訳 |
| 18. 統計資料の逐次解析表  | 木沢 敏雄著            |

昭和三十二年三月二十五日 印刷  
 昭和三十二年三月三十一日 発行

〔非売品〕

編集者 池田 篤 逸

発行所 甲南女子短期大学

神戸市東灘区本山町田中二五六

印刷所 一進舎印刷株式会社

神戸市生田区北長狭通八丁目一九